

事務局長会議報告 8月8日

出席者 川崎H.C、A.C横浜、横浜H.C、横浜こぶし、横浜わらび、藤沢山の会、みずなら、相模労山、みずなら、久良岐H.C、横浜山楽会、カモの会、雪童山の会、やま++ 以上14名

相模労山：奥秩父で下山遅れ。
やま++：木曾駒で滑落した他の登山者を救助する。

県連からの報告：
遭対部講習会「登山の基礎」の案内。定期理事会開催の案内。

事故の報告：
みずなら会員 7/16に赤岳県界尾根上でてんかん症状発生。ヘリにて救助。入院中。

活動報告
川崎ハイク：三頭山で道標間違いによる道迷い。
三頭山中央稜の道標は間違い
わらび：中国ターコニーヤン。高山のためバス移動中でも高山病発症するので注意。



県連のスケジュール

9月		10月		11月	
1	金	1	☽ ハイキング実技	1	水
2	土	2	月 常任理事会	2	木
3	☽ 救助隊レニカ* (無雪期)	3	火 救助隊会議	3	金
4	月 常任理事会	4	水	4	土
5	火 救助隊会議	5	木	5	☽ ハイキング実技
6	水	6	金	6	月 常任理事会
7	木	7	土	7	火
8	金	8	☽	8	水
9	土	9	☽	9	木 遭対部会
10	☽ 理事会	10	火 事務局長会議	10	金
11	月 遭対部会	11	水	11	土
12	火 事務局長会議	12	木 遭対部会	12	☽
13	水	13	金	13	月
14	木 ハイキング机上	14	土 救助隊全体訓練	14	火 事務局長会議
15	金	15	☽ 救助隊全体訓練 ハイキング実技	15	水
16	土	16	月 事務局部会	16	木
17	☽	17	火 リーダー学校 机上	17	金
18	☽	18	水	18	土
19	火 リーダー学校 机上	19	木	19	☽ 遭対部講習会 自己脱出
20	水 事務局部会	20	金	20	月 ハイキング終了式 事務局部会
21	木	21	土	21	火 リーダー学校 机上
22	金	22	☽ 遭対部講習会 岩の確保技術	22	水
23	☽ リーダー学校 実技 遭対部 登山の基礎(机上)	23	月	23	☹
24	☽ リーダー学校 実技 遭対部 登山の基礎(実技)	24	火	24	金
25	月 自然保護委員会	25	水	25	土
26	火	26	木 教育部会	26	☽
27	水	27	金	27	月 自然保護委員会
28	木	28	土	28	火
29	金	29	☽	29	水
30	土 ハイキング実技	30	月 自然保護委員会	30	木
		31	火		

連盟ニュース
260

神奈川 9

2006.9.12



「流雲の薬師岳」写真提供：トリコシアキオ (<http://tory.com/>)

「登山の基礎」(バランスアップ講習会)のご案内
救助隊全体訓練参加者募集中
山での通信方法・救助要請はどうすればいいの!?
ハイキングリーダー学校報告
会紹介2006
トリコシアキオ写真展のご案内
自然保護委員会報告
常任理事会報告
2006年度の各会の目標紹介
2006年クリーンハイク報告集をみて
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定
事務局長会議報告/ 県連のスケジュール

遭対部 2
2
遭対部 3
講師・中山建生 5
組織部 6
7
7
8
組織部 10
理事・中山建生 11
12
14



神奈川県勤労者山岳連盟
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階
発行責任者 後藤 真一 編集責任者 村松 勝
TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzan.net/>

「登山の基礎」(バランスアップ講習会)のご案内

2006.09 神奈川県連・遭難対策部

登山事故の37%は「転倒」が占めています。本講習会のメインテーマは「歩行時、岩場でのバランスの改善」です。「自分は大丈夫だよ」という貴方！今いちど、ご自身のバランス感覚を見直してみたい方がいませんか？「バランスボール」や「平均台」などを使ってゲーム感覚で楽しく、バランス力を身につけましょう。

その他「登山の運動生理」「山の気象の基礎」などのほか、「ツェルトの立て方」「携帯電話の使い方」など、実践に即した話題を紹介し、いわば「ハイキング学校のコンパクト版」とも言うべき内容になっています。

対象者：

登山の初心者、基礎から学びたい方。歩行や岩場でのバランスに不安のある方。

9月23日(土)机上講習会の主な内容

会場：横浜市神奈川スポーツセンター(045-314-2662)、9:30受付開始

- (1)登山やハイキングの事故・遭難の原因と対策を考え、安全に楽しめるようにしましょう。
- (2)登山やハイキングで体調を維持する「運動生理学」「健康管理」の基礎を学びましょう。
- (3)歩行時の「姿勢・バランス」の重要性を再認識し、改善する方法を考えましょう。
- (4)万一の時のための「リスク管理」について考えましょう。(ツェルトの使い方など)
- (5)「連れて行ってもらう」から「パーティ全員がリーダーとなれる」ことを目指しましょう。
- (6)山で役に立つ「気象の基礎」を学びましょう。
- (7)「携帯電話」の実践的な活用方法を学びましょう。

9月24日(日)実技登山(丹沢・鍋割山)の主な内容



- (0)準備運動、(1)当日の気象傾向の予測
- (2)地図を見てルートの地形の特徴を理解
- (3)コンパスの使い方
- (4)パーティを編成してオーダーの確認
- (5)行動食の内容チェックと、水分摂取の方法
- (6)ストックの使い方
- (7)急な登下降、岩場での姿勢およびバランスの確認
- (8)谷と尾根で携帯電話のアンテナ本数の違いを確認する
- (9)ツェルトの設営
- (10)補助ロープ、シュリング+カラビナの使い方
- (11)下山後の整理運動

参加費用：3000円

机上+実技セット価格。実技のタクシー代込み。

個別受講はできませんのでご注意ください

申込先

遭難対策部・田草川：090-2728-0863 (kanagawa_soutai@yahoo.co.jp)

救助隊全体訓練参加者募集中

10月14日(土)、15日(日)

救助隊登録の皆さん、日々のお勤め、山行、お疲れ様です。10月に隊員全員を対象としたシミュレーション訓練を予定しています。昨年の奥多摩での捜索訓練をさらに充実させた形での実施を考えています。県連会員がよく入山するようなエリアを訓練場所に選定し、現場での捜索・通信活動訓練のほか、本部も

作って事務的なことも含め実際にどのような作業が必要となるか、どういう問題点があるか等を体験・検証することが目的です。今回は、昨年からの合同でいろいろとお世話になっている埼玉県連はじめ東京や千葉県連からも参加予定です。

非常時にはいかに普段から面識があるか、

相模勤労者山岳会 報告 水村和也 計37名(男27:女10)

7/26 小川山(1)	8/5 三ツ峠(RCT)(3)	8/13 小川谷廊下(4)	8/17-19 薬師岳(1)
7/24-27 大日岳・立山三山(1)	8/6 見晴小屋ポッカトレ(1)	8/12-15 表銀座縦走(1)	7/29-8/20 海外登山 インドヒマラヤトレッキング(1)
7/29 竜喰谷(3)	8/6 葛葉川本谷(2)	8/14-15 巻機山(1)	8/19-20 北岳パットレス・第4尾根(5)
7/29-30 甲府幕岩(1)	8/5-6 釜ノ沢東俣(3)	8/16 天王岩(1)	8/7-23 ペテガリ・カムイエク・羅臼など(1)
7/28-30 大荒川谷(2)	8/4-7 小川山(2)/(1)	8/12-16 小川山(1)	
7/29-30 七時雨山(1)	8/1-8 赤牛・黒部五郎(1)	8/12-15 針ノ木岳・爺ヶ岳(1)	
7/28-31 朝日連峰(1)	8/7-8 富士山(1)	8/14-16 爺ヶ岳~七倉岳(1)	
8/1-4 前穂・奥穂・槍ヶ岳(1)	8/10-11 剣岳・源次郎尾根(2)		

みずなら山の会 報告 小川眞澄 計33名(男20名 女13名)平均53歳

8/17-18 早池峰山、岩手山(1+1)	8/27 (8)	9/16-18 早池峰山、岩手山	
8/20 和田山(2)	9/2 広沢寺(5)	10/ 救助訓練	
	9/9-10 五竜-鹿島槍		

久良岐ハイキングクラブ 報告 三上茂 計10名(男6女4)平均58歳

8/5 室内例会(4)	8/19-21 白峰三山(6)	9/16-17 奥鬼怒	9/30 室内例会
8/9-11 蝶ヶ岳(中止)	9/2 室内例会(8)	9/22-24 蝶ヶ岳	10/14-15 鳳凰三山

横浜山楽会 報告 佐竹範明 計17名(男9 女8)平均63歳

8/9 例会(12)	(5)	湯の丸高原キャンプ場	花火
8/20 兜山(7)	9/7 例会	9/24 茅ヶ岳	10/14-15 白毛門
8/22-24 餓鬼岳(1)	9/9 月例 塔ノ岳	10/5 例会	10/22 月例 塔が岳
8/26-27 瀧沢園キャンプ	9/16-18 キャンプ山行	10/6-8 清内路村・納涼	

雪登山の会 報告 後藤 亨 計20名(男 女)平均 歳

7/29 尾瀬・鳩待峠・オヤマ沢田代-至仏山-山の鼻-鳩待峠(3)	雲ノ平-薬師峠(2)	8/10-12 野反湖-魚野川-小ゼン沢-野反湖(3)	岳-三俣蓮華岳-水晶岳-読売新道-黒部湖(2)
7/29 湯河原・幕岩(4)	8/2 丹沢・矢駄沢(2)	8/13-16 上高地-西穂-奥穂-槍-上高地(3)	8/19-21 猿倉-大雪渓-白馬岳-杓子岳-鍵ヶ岳-鍵温泉-猿倉(2)
7/30 小川山(屋根岩2峰セレクション、他)(3)	8/6 丹沢・モミソ岩(セルフレスキュートレーニング)、新茅沢(8)	8/13-19 黒戸尾根-甲斐駒ヶ岳-塩見岳-聖岳-畑薙(1)	8/23-24 宝川ナルミズ沢-朝日岳-宝川林道ゲート(3)
7/29-8/3 岳沢-前穂-北穂-槍-三俣蓮華-鷲羽-尾根-大倉(1)	8/6 丹沢・大倉-二俣-鍋割-塔-三ノ塔-三ノ塔尾根-大倉(1)	8/14-17 折立-黒部五郎	

やま++ 報告 栗田 彰 計13名(男7:女6)平均44.8歳

8/5-7 甲斐駒(黒戸)・仙丈ヶ岳(7)	8/23 例会(12+1)	8/27-28 阿弥陀岳・赤岳・硫黄岳(3)	9/22 天狗岳
8/8-10 (1+2)	8/26-27 ナルミズ沢(1+藤沢山の会)	9/2-3 やま++祭り	9/27 例会
8/19-20 和賀岳(4)	8/26-27 千曲川源流・甲武信岳・三国峠(4)	9/5-9 羊蹄山・ニセコ	
8/22-26 (1+1)		9/13 勉強会	

小田原ナーゲル山の会 報告 青木義隆 計34名

8/4-5 白馬岳(2)	8/5 (ネパール)(1+6)	8/13-16 槍ヶ岳(1)	8/27 釜の沢(1+他)
8/5 至仏山(3)	8/13-14 船窪~烏帽子(1)	8/16 小川谷(1+他)	



登山ノートの救助要請メモ

http://www.yamakei.co.jp/dsn/anzen/anzen.htm が参考になります)を作っておき、山行計画書などと一緒に常に携帯しておくといいでしょう。相手と話した内容や時刻もメモしておくべきです。

他のパーティーに連絡を依頼する場合や、逆に頼まれた場合も、伝言ゲームを防ぐために口頭でなく、メモを利用した方がいいでしょう。山行計画書があれば、それに状況等を追記するだけで、かなりの情報を伝えられるはずです。山小屋が近くにある場合、そこに救助をもとめるような場合にも有効です。

救助が来るまでピバークする場合も、その周辺の踏み跡や登山道に、遭難している旨と名前、日付等のメモを目立つようにしておくことで、通りかかった人や捜索隊に発見してもらえる可能性があります。

狼煙(のろし)、煙、発煙筒

原始的と笑わないでください。確かに煙だけでは何も伝えることはできません。しかし、携帯電話や無線機で救助要請をした後、現在地を知らせる手段としてならどうでしょうか？

現在地を地図上の地点で知らせても捜索する側、特にヘリコプターにとってはそのエリアは広いので、煙を立てることで早く発見してもらうことができます。現在地がわからない場合は尚更です。

笛

自分の所在を捜索者に知らせる上で役立つものです。声よりも遠くまで届きますし、疲れたり、怪我をしていて声が出ない状況でも笛なら鳴らせることがあります。

山行計画書

残してきた計画書に対し、下山連絡が無いことが救助要請となります(もちろん、計画書が提出されていることが前提です)。家族や会によって遭難が発覚し、救助活動が始まります。その際、本人の状況は一切わからないのですから、計画書がすべてのよりどころになります。メンバー、ルートだけでなく、装備やエスケープルートなどもしっかり記入しましょう。直前に変更があった場合も、必ずその点を残しておく必要があります。詳細

な計画をたてることは、何よりも遭難の防止に役立つはずですから、いくら詳しくとも損はありません。メンバーにも早めに渡してルートを勉強してもらったり、各自の家にも残しておくのが理想です。(最悪は、ラフな計画書や、計画書が無い状況で捜索しなくてはならないことです)

以上いかがでしたでしょうか？ すべてがあなたの山行に必要なとは限りません。でも今まで行ってきたことにちょっとした装備の追加や工夫をすることで事故発生時の対応が迅速かつ正確になるかもしれません。山行計画書を、検索してもらうことを考えながら書くだけでも山行がより安全なものになるかもしれません。

補足

救助を依頼する際は、“山での”遭難であることをはっきり伝えましょう。世間一般では遭難というと海を連想してしまいます。現在位置を伝える際、地形図や登山地図から緯経度が読めれば理想的です。ただし地形図での緯経度の表記には、旧測地系表記、新・旧測地系併記、新測地系表記の3種類が存在します。いずれの場合でも読み取れることと、その測地系を伝えられることが必要です。

また地名や山・沢の名称は、地図によって異なっていたり、地元では別名があったりしますので注意してください。山での場所を伝えるという難しいことのように考えがちですが、線と点で考えてはどうでしょうか。実際に山で行動する箇所は、登山道や沢、尾根などの線上です。それに、標高や、どこそこから10分歩いたところなどの情報が加われば、ずいぶん特定できるはずですよ。

携帯電話の活用法に関しては、9月に行う「登山の基礎」講習会でも説明いたします。アマチュア無線機の使い方(交信方法)の勉強会(有資格者や救助にたずさわの方対象)も検討していますので、是非ご参加ください。

2006年クリーンハイク報告集をみて「憲法で保障された権利」?

2006.8.19 理事 中山 建生

報告集最終ページ記載の労山(勤労者山岳連盟)のことをして、労山の考えは「登山は優れたスポーツ文化であり、憲法で保障された国民の権利である」と書かれている。

これは二つの文脈から成り立つ文章で前段は「登山は優れたスポーツ文化である」と主張し、後段は「登山は憲法で保障された国民の権利である」と主張をしている。つまり国民は登山をする権利を国から保障されているのであるから、国はこれを奪ったり侵害してはならないとの意味になる。厳密に言えば「国民は・・・」とあれば外国人は含まれず、日本国民に限定されるから、外国人の登山は権利として保障されないと解釈される。ところで、労山は近年登山についての根源的な価値や主張を変えたのだろうか。従来、この種の文書は趣意書に記載された「権利として登山」であり、この意味自体明確に定義されていないし、これを変更した記憶がない。権利としての登山が主張された理由は、当時の社会的、経済的理由からであった。登山は他のスポーツと同様に評価されず、同じ野外スポーツであるスキーやテニスなどが一般にスポーツとして認知され、休暇の申請をしてもすぐに認められたのに対して、登山は娯楽、趣味としてスポーツ性の低いもの、また特殊な限られた者たちの道楽などとみられた時期があり、登山は危険な「スポーツ」として一般には相容れないものとする風潮も残されていた。一時期、先鋭的な登山をする人たちは常識や社会的なルールを守らず勝手な行動を取ったため、登山全体を歪め非難される口実を作った。登山をするものたちが他のスポーツの実現に比較して日陰者扱いされることから、勤労者山岳連盟の会員たちは登山も他のスポーツと同等であること、これを実行するための休暇やクラブ設立を認めよと要求したのが「権利としての登山」の内実であった。登山に対する差別扱いは当時の労働運動とも関わり、大企業が登山をしたいとする労働者の要求を認めないためにこれと戦うスローガンであった。当時他のスポーツ、例えば野球ができないとしても「権利として野球」などという主張を

どこにもされていない。ある種、登山は特殊な立場におかれた。労働組合の青年婦人部の活動の中で労働者の権利のひとつとして主張をしていたからである。憲法上の権利である主張するなら具体的な条文をあげなくてはならず、そう考えるとそれに該当する条文は第13条の幸福追求の権利か第25条の生存権に根拠を求めるのだろうか。これはこじつけに成らざるを得ない。第25条を広義に解釈しても健康で文化的な生活を営む権利に登山を入れようとするのには無理がある。むしろ登山の持つ価値が国民の生活を豊かにし、勤労意欲を生み出すひとつの源泉として、人格の形成や発展に寄与するものと考え、国はこうした国民の登山要求に対して、自然環境の整備や安全登山の普及に力を入れることが国民の福祉、生活環境の改善、自然への親しみと尊重など広く、豊かな生活を営む権利として新たに主張を繰り広げることであると考える。しかし、これは近年主張される国民のスポーツをする権利に基づく設備や施設の整備を求める要求を反映したものだからである。現在の一般的な憲法解釈の考え方は、登山が理論上すでに憲法上の定められた権利であると示すものはない。私も前記の主張を明確に示す条文上の根拠を示すことはできない。同様に「スポーツとしての登山」この意味は登山＝スポーツと位置付け、単なる趣味や特定のものたちの道楽とは違う旨を宣言をした。スポーツの定義は略すが、学習とトレーニングを欠かすことのできないもの、向上心や意欲、フェアな精神などスポーツマンシップが求められるとした位置付けをした背景には、従前の因習的な徒弟制度や体罰などを当然とする誤った考え方を否定し、山岳会運営を民主的で集団的な新しい考え方を導入したからであった。これが労山の創立の決意であったと考える。

2006年度の会活動紹介

藤沢ハイキングクラブ

会長：大田 寿勝 副会長：池田 昭雄

事務局長：清水 守

・安全登山とワンランク上の山行実現のために山行管理体制の改善・遭難対策の強化・リーダー教育の充実を計る。

・自然を守る運動。反核・平和運動に取り組む
自然保護部：クリーンハイク・観察会・自然保護運動の実施。

教育部：机上学習・実技、実践山行の充実。
ハイキング部：会ハイクの実施、リーダー養成

横浜ハイキングクラブ

会長：西川憲男 副会長：千葉正澄

事務局長：池上準子

・ハイキング（ランク1）～熟達者（ランク6）まで全員が参加できるように会山行の充実を計る。
・安全登山・ハイキング学習会・実技講習会を開催し会員のレベルアップに努めます。

・今年度は幅広い人材育成のためハイキングリーダー学校、登山初級、中級リーダー学校への派遣に取り組みます。

川崎ハイキングクラブ

会長：小林悦治 副会長：当山利雄・佐藤明子

事務局長：樋渡輝彦

・会員拡大と受入れ体制
・安全や山行とリーダー養成

・全員参加の会活動
・労山自然保護憲章の普及と自然保護活動

雪童山の会（第7期総会）

会長：青木武志 副会長：岡崎広士・成田仁司
事務局長：後藤 亨

・6期総会に於いて、会を全面に出した活動の結果、山に対する個人の自主性が損なわれるのではないかという反省があり、6期は地域を限定せず個人重視の山行を主体として活動してきた。その結果山行回数は増えたものの、このままでは特色のない山岳会として衰退していくのではないかという危惧が生れた。その反省から7期の活動方針として、設立当時の考えに戻り穂高を重点地域に定め、合宿、個人山行を通じて多くの重点地域のルートをトレースすると言う結論に至った。

さがみ山友会

会長：釣 秀平 副会長：奥平 学

事務局長：西村 章

・危険回避の判断能力と技術及びセルフレスキューの技術の向上。

・新人会員の増加と教育制度の確立

・リーダー会の強化

・ホームページの充実発展。

カモの会

会長：岡野 博行 副会長：浅原 健一

事務局長：村井 康紀

・同方針

・運営委員は2・3年目会員は原則参加とする。

・会長選挙は毎年行う（任期は1年・再任を認める）

川崎労山

・山行ミーティングの実施と計画書の提出を1週間前に徹底する。

・リーダー層の指導の一環として月1回の岩トレを実施する。

・会員拡大の為のホームページ作成の充実を計る。

わらび山の会

会長：野尻 邦夫 山行部長：内田 道子

事務局長：初山 輝夫

（三役は会長・山行部長・事務局長です。）

相模労山

会長：蝦名 政治 副会長：渡辺 三男

事務局長：水村 和也

・より安全な登山を目指し、会員の技術向上を計る。

・会名変更

・ホームページ新規立ち上げ

・事務所閉鎖

横浜こぶしの会

会長：川上 良一 事務局長：田辺 美由紀

・会員がスムーズに技術習得できるよう年9回の教育山行を実施。

・例会ごとに机上学習の場を設け登山に関する基本知識の学習をする。

・年10回の低山ハイキングを実施。

アルパインクラブ横浜

会長：大江 健正 副会長：熊谷 修治

事務局長：山本 敬

・山を知る。高みを目指す。仲間を大切にする。

・安全意識の啓発と啓蒙。

・40周年記念。

横浜山楽会

18年度活動計画

会長 原 信弘 事務局長 山口 登

ホームページの開設を検討

新入会員募集と受入れ態勢の検討

会員の高齢化に伴う安全対策学習

年間会山行の実施 春山山行5月 夏山山行

7月 秋山山行10月 忘年山行12月（一泊）

新年山行1月 冬山山行2月

ハイキングリーダー学校報告

2006年8月20日・丹沢葛葉川での体験と輝き

報告者講師 中山 建生

8月20日講師4名（増田・加藤・渡辺・中山）生徒7名での葛葉川の沢登りを通じて新しい体験、そして経験のあるものは次のステップに向かうための実習を行った。反省会の生徒の発言からは、始めは慣れずに怖かったがだんだんスリルもあって面白くなった。こうした機会にロープの結束や実際に斜面を登ることが安全につながる機械となったことを実感していた。

さて、当初いくつか課題を考えていたが、最初のへつりで生徒の能力がわかったため、余計なことは止めて、実際に体験するホールドとスタンスの確認、水際の歩行、濡れることで不安を解消することに専念した。昨夜の天気予報は台風の北上とともに南からの風に、太平洋にかかる薄い帯状の雲が雨をもたらす、伊豆半島などの南部は朝から、山沿いは正午ごろとの情報から雨の降らないうちに沢から抜け出すことを考えていたから、途中からトップを代わって林道までピッチを上げた。ことときは生徒のがついてこられるか、体力の残りはあるのかをみていた。

葛葉川はいつもの水量より多く、林道までの間、沢登りの楽しみを満喫した。心配したヒルにも虻にも会わずに済んだし、雨が降り増水、泥水のなかを逃げることもなかった。しかし、いくつかの講習会参加者と重なり、大にぎわいで滝が架かる場所では待ちの状態となった。初心者の沢と紹介されることから、装備を持たなかったり、技術がなかったりする者たちを何人か見かけた。滝のへりに立ち撮影をするものもいた。

講師集団の反省もあった。経験の違いにより2グループに分けて、別行動としたが、集合時間と予定地を明確にしておかなかったことであった。双方に不安を残したことを反省した。簡単な場所でも手抜きをすることになると、別な機会でも同じようなことが起きるからである。

最後に生徒の感想をいくつか紹介しておこう。Aは「面白かったので、また体験したい」、

Bは「石の上に載ったときのバランスが悪く、泥の斜面でずるっとした。自分の課題としたい」、Cは「バランスは不安、慣れてきて楽しめた」、Dは「水量が違えばまた新しい発見があった」など総じて沢登りの体験がはらはらどきどきしても面白かったとしていた。こうした関心や意欲が次につながると思う。講師の一人は「頭で考えるよりは機会を増やして慣れることです。みんな楽しそうに登ってよかったと思います」と語った。

秦野に戻り、会計もあり懇親会となった。この席上ではみんなの自由発言となり、ハイキングと言えど必要なことは身につけておくこと、危険なことをしないから必要ないなどと一見分かりやすいようであいまいな基準が危機を生むこと。ある講師は自分の体験を語る中で大変な思いをしたこと、現地の人たちに心配をかけたことを話すと皆真剣に耳を傾けた。生の話のインパクトは誰にもわかる故に雑談とはいえ今日のみとめとなったように感じた。

ここに参加した生徒たちに必要なことは、ひとつ上を目指す体験の中で知識の必要性、技術の習得、メンバーとのつながり（よりよい集団を作る）、意欲、楽しさを感じさせることだと思ふ。可能性を引き出し、自分の力で登る、下りることができるよう、また仲間と気持ちを通じて楽しい安全な登山ができるよう常に働きかけたいと思う。

レベルアップの機会、山域を考えて提案したいと思う。

8月21日



神奈川県労働者山岳連盟加入団体の紹介

問い合わせ先 TEL 045-430-5665 FAX 045-434-2726

	団体名	会の紹介	ホームページへのリンク	入会条件・連絡先	教育
1	川崎勤労者山岳会	安全登山をもっと取り組む会です。四季折々の山に入り、形態もさまざま、お互いの行きたい山に向かって技術習得の出来る方、山に登ってみたい気力や熱意のある方、お待ちしております。	http://kawasaki.rousan.hp.infoseek.co.jp/	入会条件なし	登山学校あり、(机上・実技)、搬出訓練、雪上トレあり
2	川崎柴笛クラブ	ハイキングから岩のぼり雪山まで幅広く活動中。安全登山を目標に初心者には教育山行があります。落ち着いた穏やかな会です。	http://www.shibabue.com/page/page-1.htm	入会条件なし	教育山行あり
3	相模勤労者山岳会	会員の自主的な山行を中心に各種登山活動を行っております。月2回の例会・机上学習・実技訓練、機関紙の発行・共同装備の貸し出し・ジャンル別ミーティングなど行っております。	http://sagami.web.infoseek.co.jp/	入会条件なし	机上講習、実技訓練あり
4	川崎ハイキングクラブ	縦走。中ハイク・軽ハイク・ミニハイク・平日・温泉の6グループにより構成されて活動しているのが特徴です。又安全教育に力を入れた会運営を心がけています。	http://homepage2.nifty.com/kawasaki_hc/	4時間以上あ歩ける事。新人教育期間あり 連絡先：樋渡輝彦 03-3422-1482	登山知識 基礎技術の習得 リーダー育成
5	小田原ナーゲル山の会	ハイク、温泉山行、縦走、岩、沢、テレスキー、山スキー、アイスクライミング、まで幅広く活動中。	http://nage1.jp/		
6	アルパインクラブ横浜	仲間と共に楽しみながら自分で考え行動し、高みを目指している山好きの集まった山岳会です。横浜を中心として夏山一般縦走、ロッククライミング、沢登り、雪山などオールラウンドに活動しています。20~30代を中心に活動しています。	http://acy.jpn.org/	入会条件なし 連絡先：inqu@acy.jpn.org	雪上訓練・深雪訓練・遭難対策訓練・登はん技術講習会
7	横浜ハイキングクラブ	横浜市在住者中心のハイキングクラブです。近郊の低山の日帰り、縦走、お花見会や、たまにはスキーと幅広く楽しんでいます。	http://yokohamahc.web.infoseek.co.jp/	40~60歳まで 連絡先：池上準子 045-825-9398	自分で計画して山行ができるようになるための教育。
8	横浜こぶしの会	『ハイキングからヒマラヤまで』を合言葉に、ハイキング、フリークライミング、縦走、沢登り、冬山、山スキー等幅広く山を楽しんでいます。会員の自主性を尊重しています。	http://kobu-shi.hp.infoseek.co.jp/	入会条件なし連絡先：田辺美由紀 kiki@f5.dion.ne.jp	年9回の教育山行あり。机上学習・教育山行あり リーダー育成
9	横浜わらび山の会	自然を通じて会員相互の親睦をはかり、「生涯登山」を合言葉に楽しい山歩きやハイキングを目的としています。日帰り山行から夏山3000m山行から神社、仏閣、温泉、花めぐり、又清掃登山や障害者登山など積極的に参加しています。	http://www.k-rouzan.net/links/yokohama_warabi_no_kai/index.html	40歳以上未経験者歓迎 連絡先：野尻邦夫 046-871-1450	健康な体力作り
10	藤沢山の会	ハイキング・沢・岩・雪山とオールラウンドな山行を実施しています。又会全体で夏山合宿・忘年・記念・新人歓迎山行等行っています。	http://www2.tba.t-com.ne.jp/fujisawa_yama/	年齢制限なし・例会で行う座学、ミニ講座に出席 公開募集はホームページのみ(湘南地域の方)	ミニ講座・座学により地図が読めるようになり、自分で山行計画が立てられる教育。
11	こだまの会	コープ神奈川の組合員、職員で構成しています。		「コープ神奈川」の組合員、職員、パート職員 連絡先：樺沢正道 045-921-8180	なし
12	みずなら山の会	縦走、沢登り、クライミング、スキー、冬山と幅広い活動をしています。より高いレベルの山行に安全に参加できるように座学と実技を学べるようにしました。	http://makiyamaenchi.web.infoseek.co.jp/	入会条件なし 小川真澄 045-785-5857	レベルの高い登山の為の座学、実技。
13	久良岐ハイキングクラブ	室内例会と定例山行を月に一度しています。春と秋に公開ハイキングをします。夏は縦走、冬は低山山行をします。	http://www5f.biglobe.ne.jp/~m3s/	入会条件なし。三上茂 045-891-6496	なし
14	緑と星スキー山の会	現在会として山行が行われておらず、個人山行となっている。		お問い合わせ：nori-okd@viola.ocn.ne.jp	
15	さがみ山友会	沢を中心に岩・縦走・山スキー・雪稜と幅広くやっています。	http://www.geocities.jp/sagami_sanyukai/	入会条件なし 連絡先：西村章 046-247-4413	新人教育の他、安全登山の為の各種講習会を多数実施
16	こまくさハイキングクラブ	会員の交流と健康増進を目的にハイキング、小屋泊まりの縦走をしています。		入会条件なし。 046-849-5356 連絡先：山田日出子	なし
17	横浜山楽会	オールラウンドな山行をしています。		50歳以上。会山行に参加後相互の合意で決める 連絡先：山口登 045-761-0274	なし
18	カモの会	縦走、クライミング、沢登り、山滑走とオールラウンドに年間350以上の山行を実施。20~30代がほとんどで会員数は70名。集会は奇数月第4火曜日に横浜、偶数月第3水曜日に東京八重洲で実施、原則参加を義務つけています。PCメール(携帯のみは付加)、EXCELは必携です。	http://www.kamonokai.com/	入会時期は年に1時期HP上で。(最近では毎年2月頃)平均年齢以下(18~33歳程度)募集。お話し期間あり。HP掲載のメルアドが窓口	教育制度あり。(岩トレ、読図、ファーストエイド、雪上トレ、搬出トレあり)
19	白嶺岳和会	まったく初心者でもいいんです。山の上級者になりたいと思っている方を募集します。万年初心者を卒業して、アルプス縦走リーダーへ、アルパインクライミングも楽しい。集会是小田急線町田、相模大野周辺にて。		入会条件なし 連絡先：館田秋義 042-757-5066 平日夕方6時~9時まで	
20	雪童山の会	「仲間と共に」「安全登山の実践」「山を研究する」「夢や目標の実現」「生涯登山の実践」「総合的な山とステップアップ」の六項目の会の理念と共に、学習とトレーニングにより会員各自の夢の実現を目指しています。2000年の会創立以来穂高地域研究5ヶ年計画に取り組んでいます。	http://www5e.biglobe.ne.jp/~yama/	入会条件なし 連絡先アドレス armchairclimber@mail.goo.ne.jp	安全登山の為の講習・実技を行い新人会員の教育に力を入れています。
21	地平線の会	ハイキング、縦走、山スキー、海外トレッキング・登山までグローバルかつ地球にやさしくを目指してマイペースに活動しています。	http://www.geocities.jp/tiheisen2004/	自然を愛し仲間を大切にすること	なし
22	裏山探検隊	山岳スキー・山岳スノーボード愛好者で編成。長野白馬、東北秋田周辺をホームグラウンドとし、積雪期の活動中心。		総会総意により入会可 連絡先：大河内浩一 tel 090-2914-6784	雪山でのセルフレスキュー
23	やま++	小田急沿線(川崎北部~相模原)を中心とした地域に住む自然大好き人間が集まって結成した小さな会です。例会：百合ヶ丘駅付近	http://www.geocities.jp/yamaplpla/	PCを保有している事。3ヶ月の準会員後入会。例会・会山行に参加 連絡先：山本 文子	読図・RCT・セルフレスキューを重視。山行企画し、リーダーをこなせるようになる事

写真展のご紹介

県連副理事兼遭対部長の鳥越（トリコシ）氏の写真展が開催されます！
いわゆる山岳写真の展示ではありませんが、自然の美しさをテーマにした絵画的な写真27点が掲載されます。スライドショーのイベントなどもあります。
自然が好きな方、写真が好きな方はご覧になってみてはいかがでしょうか？

詳細：<http://tory.com/>

開催場所：ギャラリー Lei'OHANA（レイオハナ）

最寄り駅：横浜市営地下鉄・センター南駅

連絡先：045-941-6169，<http://leiohana.jp/>

開催期間および時間：

10月5日（木）～10月8日（日）11：00～18：00

（特別企画：毎日18：30より大画面スライドショーがあります！）



自然保護委員会記録

記録：萩原（藤沢山の会）

日時 H18年8月28日19：30～21：15

参加者 大用（川崎HC）、金森（みずなら山の会）、北野（緑と星スキー山の会）、児玉（カモの会）三上（久良岐HC）、磯部（地平線の会）、田辺（横浜こぶしの会）、萩原（藤沢山の会）

委員長作成の今期活動報告（9月10日の理事会で報告）について

・4月30日クリーンハイク下見、5月15日実行委員会（県連事務所）、7月30日報告書作成を追加

・6月25日クリーンハイク実行委員会の解散の明記

・クリーンハイク以外の活動、5月14日自然観察会（三浦市）も載せたほうが良い

クリーンハイクの総括について

・委員長にまとめを任せて発表してもらう

・問題事項については、来年に向けて話し合っていく

・チラシについても考える
クリーンハイク報告書について
・写真や表が沢山あってみやすい
・写真の説明がほしかった
・水質検査、ゴミの数量など前の年と比較がすっきり見やすく分かりやすかった。

・報告書に実行委員会の活動やまとめを載せられると良かった

・報告書作成について、一人に負担がかかってしまったので、今後は実行委員会の役割分担を決めるときに、編集担当者を数名決めると良いのでは

その他

・自然保護憲章について自然保護委員会としてのどの様に考えているか等の話あり

・クリーンハイクの会計報告はまだ個人参加者への郵送料があるため次回に繰越

・今後の自然観察会についての話が出ました

以上

常任理事会報告

【日程】2006年9月4日(月)19:00～

【場所】県連事務所

【参加】村松、磯部、後藤、小竹、小野寺、押本、
吉岡、鳥越(議事録作成)、
三上(理事:オブザーバー参加)

1. 新保険業法に関わる遭対基金の対応基本方針について

<議案> 新保険業法に対する基本方針の件

- (1) この9月30日までに「特定保険業法」の申請はしない。
- (2) 労山遭対基金存続のため、新保険業法の「適用除外」を求めるたたかいを「懇談会」に結集した他団体とともに継続する。
- (3) また「適用除外」が実現できない場合のため、現状の遭対基金に準じる「山岳保険」の設立について検討・研究もする

2. 関東ブロックにおける合同救助捜索訓練について

- (1) 労山とは関係の無い一般ハイカーが谷川で行方不明となり1年が経過、遺族より全国労山本部に「遺体の捜索をしてもらえないか」という依頼が舞い込んだ。
- (2) 埼玉救助隊の今井隊長、神奈川救助隊の熊谷隊長は、救助隊の実践訓練の場として最適、労山の社会への貢献度アップのチャンスと判断し、積極的である。
- (3) しかし関係者の中には、労山以外の人間のために救助隊を実践の場で危険にさらすことには抵抗感がある、という意見もあり、常任理事会での承認を依頼。
- (4) 常任理事会の意見:「万一何かが起きたとき」の備え(装備的、心理的)、遺族や関係者とのコミュニケーションを確保、といった周辺環境を十分に整えた上で、参加するなら良いのではないか。
- (5) 常任理事会では、全国の理事会で責任を明確にしてとりまとめた上で実施するならOKだろう。ということで承認されました。

3. 関東ブロック雪崩学校について

- ・日程: 1月13～14日(土日)
- ・とりまとめ: 東京都連・陶山(すやま)氏が担当
- ・問題点: 各都県ごとに参加費や机上習得レベルが異なるので統一化が必要。陶山氏中心に各都県担当者レベルで摺り合わせることにする。

4. 40周年記念イベントについて

- (1) 予算が苦しいので、事業性のあるイベントにして、一般の方に参加費を支払ってもらいたい
その結果、一般参加の方の県連入会も考えられる。
- (2) 自然観察会、各種講習会、などの楽しいイベントを実施したい。
- (3) 丹沢危険マップの調査などはどうか?(年間事業)(県連の社会貢献をアピール)
- (4) 集中事業 どこかの土日を設定して、

県民センターにて、基調講演、スライド上映 会、各種講習会の実施

(2007年の秋くらいをメドに)

- (5) 県連700余名が全て参画、協働できるイベントにしたい。記念誌の発行も。
- (6) 定期理事会にて検討、採決、実行委員会の設立などをしたい。

5. 遭対部より(鳥越)

報告の詳細は別紙参照のこと。

<追加議論の要点>

・遭対活動については、会員の方からは「何か非難されてるのではないか」「何か蒸し返されるのではないか」といったような誤解があり、それがかえって、遭対活動を阻害してしまっているのではないか。

北風と太陽、技術的、具体的な遭対活動の前に、遭対部、県連上層部と各会のコミュニケーションを見直して、友好的な関係を復活し、情報交換を活発にしてこそ、真の遭対活動のスタート地点に立てるのではないか。

6. 組織部より

・「山スキーネットワーク」を活発化させましょう。
・小田原ナーゲルなど、一部の会から情報が途絶えています。

各会とのコミュニケーションを復活しましょう。

7. 定期総会について

- ・日程: 9月10日(日)
- ・会場: 川崎市中小婦人会館(県連ニュースに案内あり)
- ・13:00開催、常任理事は12:30集合
- ・やることが多いので、18:00まで延長
- ・受付: 押本+小竹
- ・9/4各理事に召集通知と議案書を郵送手配しました。

<内容>

- ・あいさつ: 後藤氏
 - ・専門部会上期活動報告
 - ・会計報告
 - ・質疑応答
 - ・下期活動予定、方針
 - ・質疑応答
 - ・全国労山評議会採決内容報告(発表: 磯部氏)
 - ・遭対基金に関する新保険業法適用除外
 - ・質疑応答
 - ・県連40周年記念イベントに関する意見交換
 - ・閉会あいさつ(渡辺会長)
- ### 8. メディア代金について
- ・県連ニュースの印刷代がボランティアで無料だったので、「1月3000円」を予算に計上することになりました。
 - ・県連ホームページはトリコシのボランティアで管理・運営されているが、これを「年間1万円」として計上することになりました。

以上